

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492600141	事業の開始年月日	平成20年12月1日	
		指定年月日	平成20年12月1日	
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会			
事業所名	花物語 さがみ湖			
所在地	(252-0171) 神奈川県相模原市緑区与瀬719-3			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	18名	
自己評価作成日	平成24年2月10日	評価結果 市町村受理日	ユニット数	
			2ユニット	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>一人ひとりのできる力を大切に、共に生活をしています。 できるだけ長期、グループホームでの生活を維持できるように協力医療機関との連携体制、かかりつけ医の往診・訪問歯科診療・調剤薬局からの指導助言等々において医療面の充実を図っています。また、日々の散歩、地域の行事にも積極的に参加して近隣住民の皆様とのコミュニケーションをとっていきなど、活気ある生活をしていただいております。 毎月1回、自社所有のマイクロバスで外出を実施しています。外出先は相模原市内・都内方面で公園、博物館、水族館、各種アミューズメント施設などです。そのほかピクニックに出掛け、外食を楽しむのもその一つであります。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成24年2月28日	評価機関 評価決定日	平成24年5月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 当事業所はJR中央線・相模湖駅から7分、国道20号線から少し入った住宅地の中にある。木造2階建ての南側にあるリビングの大きな窓からは明るい光が入り、相模湖や山々が眺められる。事業所の名の通り「花守」の職員が手入れをしている鉢植えの花や、利用者と一緒に活けた花など季節の花が随所に飾られている。また清掃にも気を付けており、清潔で温かい雰囲気作りをしている。 【理念を目指してのケア】 事業所の理念の一つ、「笑顔」に力を入れ、利用者一人ひとりの出来ることを見守りながらケアを行っている。この事業所が「住まい」と思ってもらえるように、特に毎日の食事作りは、冷蔵庫の中を見て、利用者と一緒に献立を決めるなど、普通の家庭のような生活にしている。法人の車でスカイツリーを見に行ったり、品川水族館へ行ったり、様々な所へ遠出することで、日常生活とは違う楽しみを味わえるように積極的に外出支援をしている。 【医療連携と重度化対応】 協力医や看護師が毎週、来所して利用者の健康管理を行っている。重度化した利用者の家族からの依頼と協力があり、医療と連携して、職員と一丸となって、利用者の生活を1年半支えることができた。このことは、家族からも大変、感謝され、チームとして対応することができたことで職員の自信にもつながり、今後の重度化対応への見通しができた貴重な事例となった。 【継続的な運営推進会議】 運営推進会議を2ヶ月に1回定期的に開催し、参加者の意見から保育園児との交流が出来た。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語 さがみ湖
ユニット名	1階

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員の目に留まるところに掲示して、実践につなげている。	7項目の理念について施設長と管理者が常にその思いを職員に伝えている。特にその一つである、利用者が「笑顔」で生活できるように、職員も笑顔で生活の支援を行ない、理念の実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、どんど焼きなどスタッフとともに入居者の方も参加。また、イベントには近隣の方を招待したり、保育園児との交流を持っている。	自治会に加入し、回覧板等で情報を得てどんど焼きなどの行事に参加している。クリスマスに保育園児が訪れ、遊戯の披露やゲームを一緒に行ったり、近隣のボランティアが話相手や手伝いをしてくれる。また、地元の高校の福祉科の生徒が実習に来るなど楽しく交流をしている。事業所の敬老会にご近所の方の参加があった。	昨年度の達成計画の実行により保育園児との交流ができました。今後も引き続き実行されることが望めます。また、運営推進会議でも提案されているように、地域との交流を深める、認知症ケアについて発信する、など事業所として地域に対してできることに取り組まれることを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域活動を通じて、地域の方とのふれあいを増やし、ボランティアの方や見学の方の訪問をオープンにしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動の様子を報告し、出席者より意見をうかがい、事業所での活動に反映させている。	運営推進会議を2ヶ月に一回、定期的に開催し、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員や家族、時折、近隣の人達も参加している。事業所の現況と活動を報告し、防災訓練や地域情報、地域との交流の方法などについて、意見交換が行われている。社協に相談することを勧められ、その紹介で保育園児の来所が実現した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の職員の方に、運営会議のメンバーとして出席してもらい意見交換をしている。	市役所に外部評価の結果を提出し、活動報告をしている。また、緑区津久井支所生活支援課の担当者には利用者の状況報告をしたり、介護申請などの関連事務や相談をしている。生活保護受給者について南区の生活支援課と情報交換を行なっている。県の認知症高齢者グループホーム協議会に出席して、研修などの情報を得ている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。現在、拘束はしていない。	身体拘束排除の理念とマニュアルにより研修を行ない「身体拘束をしないケア」について周知、実践している。ベッドから転落を防止するための柵は使わず、赤外線離床センサーを利用している。事業所の玄関は施錠していない。すぐそばに交通量の多い国道があるため、各ユニットの入り口は電子錠をかけている。利用者が外に出かけたい時には、いつでも職員と一緒に出掛け、満足されてから戻るようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はスタッフ全員で注意を払っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際にこの制度や事業により生活されている利用者があるので、実践的に学び、関係者とも話をさせていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、ケアプラン作成時等にご家族と連絡、説明を行いご理解、納得を得ている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議を開催し、地域の方、ご家族、ご利用者の意見をうかがう機会をもつ。</p>	<p>家族には「さがみ湖通信」を送ると共に、毎月、各利用者ごとに近況を知らせている。家族の来所時にはお茶を出して居室で歓談してもらったり、利用者の様子を伝えたり、意見や要望、疑問点などを聞いたりしている。来所出来ない家族には、電話やメールにより普段の様子を伝え、家族と緊密な関係作りに努めている。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月スタッフ会議を開催することにより、職員の意見を聞き、運営に反映させている。</p>	<p>月1回の本社の運営会議に施設長と管理者が出席している。その報告などと共に月1回、スタッフ会議やカンファレンスを行ない、職員の意見を聞いている。誤薬を防ぐために職員全体で服薬管理のマニュアルを見直し、服用時の水の出し方や確認方法について職員の提案を取り入れている。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個々の面接は事業者内で行い、非常勤職員の給与の引き上げを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内での個々の研修（OJT）は行われている。また新人職員に対しては事前の新人研修を実施している。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>各事業所の見学を行い、サービスの質の向上を行っている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人が安心して生活ができるための関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>アセスメント内容についても、家族の意見・考え・要望をお聞きしてできるだけ多く具現化できるようにより良い関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>「その時」の様子や状況を十分に把握し、本人と家族と話し合い、必要としている支援を見極める。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者が手伝っていただける事を見つけ、一緒に生活をともにできる環境をつくり出している。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時など、日常生活の様子を話し、お互いご利用者を支えていく関係を築いている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>大切にしている場所、それにあつた所へのドライブや昔の話を聴く時間を設けるなど、支援に努めている。</p>	<p>友人が訪ねて来たり、以前からの教会の神父さんと信者さんが毎週訪れる利用者もいる。2週間に1回、家族が迎えに来て外泊する方もおり、職員が準備を手伝っている。</p> <p>年賀状や暑中見舞いを出す手伝いや電話の取り次ぎもする。買い物が好きな方には、近くの馴染みの洋品店まで職員が同行し、一緒に買い物を楽しんでいる。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者の性格と利用者同士の関係の把握をし、支え合えるような支援に努めている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>ご本人の様子、その後の経過をご家族と連絡を取り合っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>思いや意向など暮らし方の希望を交えて把握に努めている。</p>	<p>職員は利用者の日常の行動や会話から、また、入浴や散歩時に思いの把握に努めている。意向を表現するのが困難な利用者については、個々の表現方法を日ごろの観察から把握するようにしている。</p> <p>言葉を掛けたり、手をつないだり、スキンシップをすることが大切なコミュニケーションの方法であることを職員全員が認識しており、利用者各々に対して個別対応をしている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>サービス利用経過は、スタッフ会議の話し合いにて経過を把握している。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>利用者の心身状態を把握し、一日の過ごし方をスタッフで話し合ったり、申し送りを行っている。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画に際して、利用者に係わる方との相談において作成している。</p>	<p>介護計画を個人のファイルの前部に置き、常に見てケアに活かしている。支援目標に番号をつけ、職員が実施したことを記録し、実施出来ているかどうかを話し合っている。6ヶ月ごとか、状態の変化時にケアマネジャーがモニタリングを行ない、見直しをして必要に応じて医師、家族の意見を参考にして介護計画を更新している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	個人記録、申し送りノートによる実践、見直しをしている。		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	応じた柔軟なサービスに取り組んでいる。		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	地域資源を利用し、暮らしの中に取り入れている。		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	協力病院、かかりつけ医と連携を取り入れながら、適切な医療が受けられるように支援している。	利用者1名は入居前のかかりつけ医に家族が付き添い受診しており、受診内容は家族から知らせてもらっている。その他の利用者は月2回、事業所の協力医の往診を受けている。また週1回、看護師が来所し、医師と連携して健康管理を行なっている。歯科医は週1回、来所して治療、口腔ケアをしている。その他の専門医の受診には職員が同行する。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>申し送りにてスタッフ同士の情報を共有し、看護師、ホームDrに連絡・相談して支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>病院関係者との情報交換に努め、早期退院できるように相談し、退院後の受け入れ体制を行っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人、家族とご希望を十分に話し合いをし、事業所の医療連携体制をご理解いただきスタッフ一同で考え方を共有して支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居契約時に「利用者の急変時や重度化した場合における対応に係る方針」を説明し、確認を得ている。医療連携体制と医師との24時間オンコールの連絡が取れるようにしており、重度化や看取りに対応できる体制となっている。看取り例はないが、重度化した利用者の家族からの依頼と協力により1年半に及んだ介護のすえ、病院で亡くなった例がある。職員が一丸となってケアを行ない、家族から大変、感謝されたことが職員の自信にもつながっている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的な訓練は行われていないが、緊急時には、ホームDrに連絡して指示を仰ぎ、同時に施設長に報告・連絡して対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に所轄消防署の指導を受け、利用者、職員、そして近隣住民の皆様にも参加していただき、消防・防災訓練を行っている。	年2回、消防署立ち会いで夜間の火災想定での訓練を行なっている。近隣住民も参加する。自治会の防災訓練にも参加している。 水、缶詰、レトルト食品など3日分とオムツ、懐中電灯、乾電池などを備蓄している。スプリンクラー、火災報知機を設置している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、誇りなどを損ねない言葉遣い、言葉かけを心がけている。	職員には年1回、プライバシー保護についての研修を行ない、周知させている。個人の尊厳やプライバシーを配慮したケアの実践として、自分がされて不愉快に思うことはしない事を心がけている。呼びかけは「～さん」と苗字で呼ぶようにしている。 個人情報に記載した書類は事務所に施錠して保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように本人が理解できる言葉かけを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容に定期的に来てもらい実施している。自由に本人がおしゃれを楽しむことができるように支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に準備、片付けなど、協力し合う。行事や季節に合った食事を計画し、食べていただく。誕生会など本人の食べたいものを聞き、提供している。	週3回、スーパーに注文して配達される食材で、冷蔵庫の中をみて利用者の希望を聞き、献立を考え、職員が調理をしている。利用者も下膳などを手伝う。職員は食事をする利用者のそばで介助や声掛け、見守りをしている。介助が必要なので、一緒に食事はしていない。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を記録し状態に応じて支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科より、個々に注意点をもらい、それに沿って声かけ、援助をしている。食後の口腔ケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表に基づき、パターンを把握し、自立に向けトイレでの排泄援助を行っている。	排泄チェック表により利用者それぞれに合わせて声掛けや誘導をしているが、布パンツを着用し、自分からトイレに行く利用者が多く、自立での継続が出来るよう、見守りの支援をしている。車椅子の方や意思表示困難な方には、時間を見て誘導し支援している。失禁に気がついた時はさりげなく対応している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物、薬物での対応を行い、予防に取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯は決めているが、本人の希望やタイミングを合わせながら、楽しく入浴できるように援助している。	入浴は週2～3回を基本として午前中に一人、午後二人入れるようにしている。入浴を好まない方には時間を変えたり、声掛けを工夫することで気分よく入ってもらえるようにしている。季節の菖蒲や柚子湯や沐浴剤を使い、気持ち良くゆっくり入れるように配慮している。明るく広い浴室の中の一人用のバスタブに入る。見守りでの入浴の方が殆どだが、一人で入浴する方もいる。身体状態に合わせて、二人介助で入浴することもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて、個人の休息時間の支援を行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>普段の様子、変化を注意深く観察し、かかりつけの医師と薬剤師が情報交換を密にできるように連絡し、努力している。服薬は、二人立会いで行い、ダブルチェックしている。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりのできる事を見つけ出し、役割を持った生活をしてもらえるよう支援している。嗜好品についても、回数を決めるなどして気分転換できるように支援している。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>気候の良好な時は、施設近くの散歩、施設内での外気浴を行う。ご家族との外出は積極的に支援している。また、月1回バスでの外出を行っている。</p>	<p>週2回、火曜日と金曜日を散歩の日に決めて、2人ずつ事業所周辺や相模湖近くまで出かける。駅前の洋品店や雑貨店に買い物に行く。職員が行事を企画し、ユニット毎に神代植物公園や品川水族館、東京江戸博物館に行き、傍でスカイツリーを見るなど、法人所有のマイクロバスで頻繁に出かけている。外食にも出かけることで利用者が大変喜び、表情が活き活きするので職員の励みにもなっている。今後も外出支援を継続する意向である。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>トラブルを避けるために、現在所持している人はいない。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙のやり取りは支援、援助している。年賀はがきを書いてご家族に出し、返事をいただいている。電話についても、ご本人の訴え時家族の都合のつく時間に対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって不快な刺激は気をつけ、居心地良い環境を作っている。季節ごとの行事の展示物を飾る工夫をしている。花守りを始め、施設内に花を飾り、心地良い正活が送れる工夫をしている。	南側の大きな窓からよく陽が入り、相模湖や緑の山々が眺められる。明るいリビングや廊下など、目につく所には「花守」の職員が手入れをしている鉢植えの花や利用者と一緒に活けた花のほかに、オーナーの油絵が飾られている。リビングにはテレビやゆったりと座れるソファ、食事や作業をするテーブルが分けて置かれている。壁には行事の写真や雛人形のような季節の飾りを置いている。空調が効き、更に加湿器や濡れタオル、時には鍋で湯を沸かすなど、適度な湿度を維持するための配慮が至る所でされている。また、換気も頻回に行なうようにしている。毎朝夕、職員が掃除をし、月一回、清掃業者も定期的に清掃しているので、事業所内は清潔が保たれ、気持ちよく過ごせる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居室は、その人それぞれが、過ごしやすい様に家具のセッティングをしてもらう。共同空間はトラブルが生じないように配慮している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族が用意された家具を使用し、居心地の良い居室で過ごされている。	居室にはベッド、クローゼット、照明、エアコンが備え付けられている。ベット用のマットや寝具、筆筒、テレビ、縫いぐるみ、写真、防災カーテンなど利用者が好みの物を持ち込んでいる。清掃、整頓が行き届き、利用者が居心地よく過ごせる場所になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分でできることは、やっていただけるよう、安全面に配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492600141	事業の開始年月日	平成20年12月1日	
		指定年月日	平成20年12月1日	
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会			
事業所名	花物語 さがみ湖			
所在地	(252-0171) 神奈川県相模原市緑区与瀬719-3			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護		登録定員	名
	認知症対応型共同生活介護		通い定員	名
			宿泊定員	名
			定員計	18名
			ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成24年2月10日	評価結果 市町村受理日		

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりできる力を大切に、共に生活をしています。
 できるだけ長期、グループホームでの生活を維持できるように協力医療機関との連携体制、かかりつけ医の往診、訪問歯科診療、調剤薬局からの指導・助言等々において医療面の充実を図っています。
 また、日々の散歩、地域の行事にも積極的に参加して近隣住民の皆様とのコミュニケーションをとっていきなど、活気ある生活をしていただいております。
 毎月1回、自社所有のマイクロバスで外出を実施しています。外出先は相模原市内・都内方面で公園、博物館、水族館、各種アミューズメント施設などです。
 そのほかピクニックに出掛け、外食を楽しむのもその一つです。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語 さがみ湖
ユニット名	2階

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員の目に留まるところに掲示して理念を実践できるよう日々努力している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、運動会、どんど焼きなど地域行事への積極的な参加や保育園児との交流を持っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の催し、運営推進会議などを通して理解、支援を仰いでいる。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施し、意見等をいただきサービス向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ連携をとり、協力関係を築く努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束をしないケアに取り組み実践している。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>学ぶ機会を持ち、注意を払い防止に努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>活用し、支援している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約は、施設長、管理者が十分に説明し理解、納得していただいている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見、要望を聞くよう努め会議等でも意見、要望を表し運営に反映させている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、スタッフ会議を設け意見交換し、反映している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の面接は、雇用契約を結ぶ時と必要時に行い、給与引き上げをしている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTなどの研修を随時実施、新人職員に対しては事前に新人研修を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	事業所として他のグループホーム等を見学させてもらえる機会をつくっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントし、ご本人のニーズに耳を傾け安心して過ごしていただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時、に耳を傾けご家族に安心していただけるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時に、必要としているものを見極め支援するよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、運動、物作りなど一緒にできるよう心がけている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や行事への参加、外部受診などご協力いただいている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご家族と交流がとれている方もいるが、個人差はある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや共同作業を通して関わり合い、支え合えるよう努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人の様子、その後の経過を家族と連絡を取り合っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望、意向に添えるよう心がけ利用者本位であるよう検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日頃の会話から把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	十分なアセスメントと記録を残し、情報を共有することで把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	カンファレンスを行い、意見交換を行っている。		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	毎日の記録や、申し送りで共有し、実践し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	その時々柔軟に対応している。		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	本人が暮らしの中で、楽しみを持って生活できるよう支援している。		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	定期的に往診医の診察を受けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>申し送りにてスタッフ同士の情報を共有し、看護師、ホームドクターに連絡・相談して支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院関係者との情報交換に努め、早期退院できるように相談し、退院後の受け入れ体制を行っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人、家族とご希望を十分に話し合い、事業所の医療体制をご理解いただき、スタッフ一同で考え方を共有し、支援に取り込んでる。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的な訓練は行われていないが、緊急時にはホームドクターに連絡して指示を仰ぎ、同時に施設長に報告・連絡して対応している。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に所轄消防署の指導受け、利用者、職員、そして近隣住民の皆様にも参加していただき、消防・防災訓練を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、言葉かけ対応に心がけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々の希望、自己決定できるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムを大切にし、支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類、髪型などご本人の希望に添えるよう支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各々できることを見つけ、一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	一人ひとりの健康状態を把握し、栄養、水分確保の支援に努めている。		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを毎食後を行っている。		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っている。		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	水分摂取や、食材選び、軽い運動を行っているが、往診医と協力し予防に取り組んでいる。		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	一人ひとりの希望に合わせ、気持ちよく入浴していただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	一人ひとりの生活のリズムに合わせ、休息していただいている。		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	医師や薬剤師からの指示を仰ぎ、理解し服用の支援を行っている。服薬は二人立会いで行い、ダブルチェックしている。		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	一人ひとりの生活歴をいかし、役割、楽しみを持てるよう支援している。		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	地域行事の参加、外出の機会をつくるよう心がけている。毎月1回、自社所有のマイクロバスで外出している。		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	金銭管理ができないため、所持していない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の協力のもと行っている。毎年、年賀状に本人の添え書きをしていただき差し出している。ご本人からの訴えがあれば電話の取り次ぎもしています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾りつけなどで、工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイルームで会話を楽しんだり、ソファでくつろいだり好きなように生活できるよう工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ使い慣れた家具や物を置き、自由にレイアウトすることで、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を把握することで、できる限り自立した生活が送れるよう工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

作成日

平成24年7月6日



【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	48	施設内にてボール投げ、 体操、トランプなどのレ ク企画を行っているが、内 入居者の希望にそったた 内容を取り組んでいき たい。	日常生活においてのレク 入居者の楽しみを増やして いく。	社会福祉協議会の協力を得 ながら、ボラunteer内容 でレクを定期的に実施す る。	一年
2	2	地域行事（運動会、納涼 祭、どんと焼きなど）のレ 参加をしてきているが、子供 たちとの交流機会を増や したい。	小学生との交流の機会を 作り、楽しい時間を増や していく。	保育園児との交流ができた ので小中学生との交流の機 会をつくり地域との交流を 深めていく。	一年
3					
4					
5					

(注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
項目数が足りない場合は、行を追加すること。